

# 平成27年度宮城県生活習慣病検診管理指導協議会

## 循環器疾患等部会 議事録

日時 平成28年2月4日(木)  
午後3時から午後4時30分まで  
場所 行政庁舎7階保健福祉部会議室

(司会)

ただ今から、宮城県生活習慣病検診管理指導協議会循環器疾患等部会を開催致します。

この会議は、情報公開条例第19条の規定に基づき公開となります。また、本部会の議事録につきましては、後日公開させていただきますので、御了承をお願い申し上げます。

委員の皆様につきましては、昨年度から引き続き御就任いただきしており、本日の名簿によりまして御紹介は省略させていただきます。なお、下川委員は所用のため御欠席となっております。

ここで、本日の資料の確認をさせていただきます。

(資料確認)

では、ここからの進行につきましては、仁田部会長にお願いしたいと思います。仁田部会長、よろしくお願い申し上げます。

(仁田部会長)

皆様本日は大変お忙しい中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

委員の先生方には昨年度から引き続きということですので、委員会の役割等は省略させていただきます。

本日は、生活習慣病による死亡率の推移や特定健康・保健指導の実施状況等の報告をいただき、委員の皆様には生活習慣病対策や市町村における生活習慣病検診に対する指導事項などについて御協議をお願いしたいと思います。

早速議事に入りたいと思いますが、(1)生活習慣病の死亡数及び死亡率の推移等について事務局から説明願います。

(事務局)

資料1-1, 資料1-2, 資料1-3 説明

(仁田部会長)

ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。

資料1-1の1ページについて、全国では死因の3位が肺炎で、宮城県は3位が脳血管疾患で肺炎は4位となっておりますが、このことが良い傾向なのかどうか、先生方はどのように思われますか。

(櫻井委員)

いずれ、肺炎が増えていくのだろうと思われませんが。

(仁田部会長)

宮城県は肺炎の予防に功績があると思いたいが、伊藤先生いかがでしょうか。

(伊藤委員)

年齢の問題はあるのではないのでしょうか。高齢になると肺炎が増えますが、宮城県の場合は死亡する年齢が平均としてどうか、死亡年齢が比較的若いなどはあるのでしょうか。

(事務局)

平均寿命は、全国平均並みです。

(仁田部会長)

肺炎の死亡率が前年より上がっているならわかるが下がっているので、良い傾向であると良いですね。

(櫻井委員)

宮城県は高齢者に対するケアが進んでいる可能性も考えられるのではないのでしょうか。  
高齢者が死亡するとすれば、老衰よりも肺炎でしょう。

(仁田部会長)

平均寿命との関係や医療機関や在宅支援、介護福祉などとの関連も見て、宮城県が優れているために肺炎の死亡率が低いということであれば非常に嬉しいことです。

(伊藤委員)

確かに宮城県の肺炎の死亡率は75.8であり、全国は95.4ですからね。脳血管疾患が多いだけではないかもしれません。

(仁田部会長)

他にいかがでしょうか。

(伊藤委員)

資料1-3の6ページ年齢別の発症についてですが、脳内出血の発症は50代、60代でもか

なり多い印象がありますが、全国の年齢別の発症登録はわかるのでしょうか。

(事務局)

全国の発症登録状況としてまとまっているものはありません。

(伊藤委員)

高齢になれば脳梗塞などは多くなるのだろうが、40代、50代の若年での脳内出血の発症は気になります。

(仁田部会長)

くも膜下出血はもっと若い年代で発症しているように思いますが、75歳位がピークとなっているのですね。

(櫻井委員)

現在は高齢化によって発症年齢も高齢化しています。

(伊藤委員)

昔はくも膜下出血は比較的若くして動脈瘤が破裂するケースが多かったが、加齢に従って動脈瘤が出てくるようなことがあるようです。

(仁田部会長)

60代前にピークがあることが通例ですので、もう少し若年でピークがあっても良いように感じます。

(伊藤委員)

宮城県のデータでは80歳以上の発症が減っているが、久山町のデータでは高齢者の発症が減っていません。80歳以上人の血管性障害の診断名は確定していないものが多いと思います。

(伊藤委員)

このデータは発症数ですよ。年齢調整をすると高齢になるにつれて上がると思います。

(仁田部会長)

よろしいでしょうか。

それでは次に(2)特定健診・特定保健指導の実施状況について事務局から説明願います。

(事務局)

資料 2-1, 2-2 説明

(仁田部会長)

ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。

(櫻井委員)

どのようにして視察地を決めたのですか。

(事務局)

山形県は健診受診率だけではなく保健指導実施率も高く、メタボ割合が明らかに改善していることから協議会でも提案いただきました。

(櫻井委員)

庄内が進んでいると聞いたことがあります。湯田川の温泉地にあった昔の国立療養所を中心に医師会が健診センターを立ち上げ、医療だけではなく多職種連携により様々な保健活動も展開しているようです。講演も行っており、先日宮城県内でも講演会があったようです。

(仁田部会長)

山形県と宮城県では健診団体の数が違います。山形県はほぼ独占のような形で健診団体と県や市町村が直接結びつき色々なことがしっかり行き届いています。宮城県では非常に熱心な団体とそうではない団体があり保健指導実施率にも差があるようです。特定保健指導については、特定健診開始当初は医師会の先生方が保健指導を積極的に行うとしていたが、忙しい開業医の先生では対応が難しいのではという懸念もあり、実際3年経過した頃そのような反省も話題になっていたが今はどうなのでしょう。

(櫻井委員)

健診受診率は高いが、保健指導を受ける人が少ない状況は変わらない。国では保健指導の実施率によって補助金に差をつけるという話もあるようだがどうなのでしょう。

(事務局)

実施率が悪い保険者にはペナルティーがあり大変であるといった話を聞ききます。

(櫻井委員)

大きな企業の健康保険などは影響が大きく大変なようですね。

(仁田部会長)

山形県の取組は学ぶべきところがあるので、要点を整理し次年度以降から取り入れられると良いですね。また、健診団体をオブザーバーとしてこのような会議の場に呼ぶことで、我々委員や県の考え方を健診団体に直にくみ取ってもらい、健診団体としても様々な情報を共有でき、とても良いことだと思います。みんなで努力してやれると良いですね。

(櫻井委員)

たばこの値段は誰が決めているのでしょうか。

(事務局)

たばこの税率は財務省所管です。

(櫻井委員)

海外ではたばこの値段が非常に高いところもあるが、日本ではさっぱり上がらないですよ。

(事務局)

オリンピックもありますので、検討はしているようですが。

(櫻井委員)

先日、復興住宅の建築現場で作業員が休憩時間にずらっと並んで喫煙しているのを見かけました。喫煙者を大きく減らすためには、何か大きなことをやらなければ難しいですね。

(事務局)

平成21年にたばこの税率が上がった際は少し喫煙率が下がったようです。禁煙学会などでは千円以上の値上げをすべきという意見もありますが、未だに日本ではタバコの値段は500円を切っている状況です。

(櫻井委員)

宮城県では肥満が多いのですか。

(事務局)

大人も子どもも肥満が多い状況です。

(伊藤委員)

子どもに対する健康教育が大切です。また減塩教育を広げなければならないと思います。コンビニ弁当もそうだが、皆さんがしょっぱいものを買わなければ、会社もしょっぱくないものを作ろうとします。

(櫻井委員)

特定保健指導実施率と肥満率を改善したいですね。

(仁田部会長)

子どもの頃からの健康教育や食育が大切という話は全体会議でも話題になりました。一部行っているところもあるようですが、健民会議のような場で学校関係者も含めてキャンペーンとして行ってはどうでしょうか。

(事務局)

現在、宮城県食育計画の第3期を作成しておりまして、学校でも食育や農産体験学習などについて目標値を定めて行っているところです。

(櫻井委員)

協会けんぽでは被保険者の健康づくりに対する意識の問題や医療費の問題などで非常に大変なようですね。

(事務局)

宮城県でも協会けんぽと健康づくりの協定を締結し連携して取組を行っておりますが、協会けんぽでは健康経営を実施している中小企業数を全国で1万社を目指しているとのことでした。

(仁田部会長)

それでは、次に(3)市町村における生活習慣病検診に対する指導事項(案)について事務局から説明願います。

(事務局)

資料3 説明

(仁田部会長)

ありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、何か御意見・御質問等はありませんでしょうか。

前年度からの変更箇所は網掛けになっており、主な変更点としては具体的な数値の更新とのことですが、いかがでしょうか。

この指導事項の各市町村への伝達はどのように行っているのですか。

(事務局)

市町村の担当者会議で一堂に集まっていたいただき配付及び説明した上、その後各市町村長宛文書でも送付しております。

(仁田部会長)

文書の羅列ではインパクトがないように思います。

(櫻井委員)

マスコミを使ってはどうでしょう。

(事務局)

昨年度も先生方からマスコミの活用について御意見をいただきまして、参考資料で配付しておりますが、今年度新たに立ち上げることとなりました健民会議などについてはマスコミと協働し新聞やCMを活用した取組を行っているところです。

(仁田部会長)

指導事項を漫画にしたらわかりやすいのではないのでしょうか。各市町村では伝達されてもどのくらい切迫感を持っているのでしょうか。

(櫻井委員)

記載内容は当たり前のことで、問題はやるかやらないかではないのでしょうか。

宮城県民は車移動が多く東京と比べると歩いている人は圧倒的に少ないように思います。歩く速さも違います。

(事務局)

仰るとおりです。平成24年の調査では、宮城県の男性は全国で最も歩かない状況となっております。

(伊藤委員)

例えば「歩け歩け運動」や「歩いて寿命を伸ばそう」「無駄な動きで無駄なぜい肉をなくそう」などのわかりやすいキャッチコピーがあるとよいのではないのでしょうか。

(仁田部会長)

毎年同じような内容で同じような対象者に配付するので、もっと今風にして伝える方法はないのでしょうか。

(事務局)

指導事項は公文書ですので、漫画にすることは難しいですが、もう少しメリハリをつけて工夫したいと思います。

(仁田部会長)

強調するところは字体やサイズを変えるなど、全部読まなくてもわかるようなものにして、もっと詳しく読みたい人は読めるようにしてはどうでしょうか。

それから、保健指導を受けた人やメタボを改善した人には弁当の商品券を上げるなどの個人に対するインセンティブと、良い取組をしている市町村を健民会議などで表彰するなどの市町村に対するインセンティブがあると良いのではないのでしょうか。特に独身の高齢者はコンビニを使用している人が多いですので、コンビニを活用してインセンティブを設けることは有効ではないのでしょうか。

(櫻井委員)

改善運動では最終的には顕彰が必要だと思います。良い取組を新聞に掲載したり、賞品を出すなど対象者にとっては顕彰がないと難しいのではないのでしょうか。

(仁田部会長)

タクシー会社でもポイントが貯まると商品券がもらえるなどありますが、そういったやり方で取り組んでいる自治体も全国では随分あるのではないのでしょうか。

(櫻井委員)

県では行っていなくても、市町村では既に取り組んでいるところはあると思います。そういった取組の範囲を広げられると良いのではないのでしょうか。



(仁田部会長)

インセンティブの付け方としては、上位ではなく下位であっても現状値から上がれば表彰するなどが良いと思います。

それから、自分が顧問をしていた銀行で、不健康な社員が多くその対応について相談された際、健康管理の責任者を課長から支店長としたことで、受診率の向上など健康づくりの成果が非常に上がったことがありました。経営者の健康管理に対する意識が重要です。県であればメタボ等の健康課題は知事の責任であり、企業であれば仕事の管理と同等に社員の健康管理に取り組むべきであり、各自治体の首長が健康づくりを自身の仕事として取組んでほしいということをスローガンとして出してはどうですか。いずれにしても、他ではやっていない取組をやらなければ、なかなかメタボワースト脱却は難しそうです。

(櫻井委員)

改善運動について先ほどの仁田先生の経営者の健康管理の意識に関する話ですが、昔から「率先垂範」という言葉があります。「企画立案」その下に「創意工夫」がついてきて、最後に「職員満足」がきて顕彰という話になります。経営者や首長などの指導者が「やるぞ」という意欲を見せれば、方法を考え出してくるようになります。そういった運動にすれば効果が出てくるのではないかと思います。

(仁田部会長)

トップに対する意識改革については、知事が会議や商工会等のトップクラスの集まりなどの場で今のような話をして、宮城県としてはトップの専権事項として位置づけるということを演説してもらえれば良いですね。

それではよろしいでしょうか。

次に(4) その他ですが、事務局から何かありますか。

(事務局)

参考資料2, 参考資料3 説明

(仁田部会長)

ありがとうございました。

「スマートみやぎ健民会議」の「スマート」は英語の「スマート」という意味ですか、日本語の痩せているという意味ですか。

(事務局)

両方です。

(仁田部会長)

先ほどからの話から考えますと、参考資料1の1ページは「メタボワースト2位」などもう少し現実感を伴った具体的な数値を掲載し、だからこういった取組が必要だという書き方にした方がわかりやすいのではないのでしょうか。また、4ページのメタボのグラフは横一列にしか見えないので立て軸を伸ばし違いを強調することで、視覚的に伝えたいことを訴える工夫があると良いと思います。

「元気！健康！フェア」では、健民会議の立ち上げもありますし、メタボワーストの話など知事に挨拶をもらえると良いですね。

(伊藤委員)

循環器学会が3月にあるのですが、その時に一緒に市民公開講座をやるという話はありませんか。9月30日から10月2日までは私が日本高血圧学会をやるのですが、そこで阿部蒲鉾店や味の素と協力して減塩の笹かまやお弁当などの減塩商品を作ることを検討しています。生化学学会がその直前にあるので1週間以上通して実際に減塩商品をキオスクや仙台駅で売ってもらう方向で話を進めているのですが、何か聞いていませんか。

(事務局)

県のメタボ事業の関係で仙台放送とやり取りがありまして、減塩メニューなどについての話を聞いておりました。

(伊藤委員)

以前も話をしたが、呉市の取組は非常に参考になります。小学校、中学校に出向いて減塩教育をしたり、美味しい減塩食を作っている飲食店の情報をタウンページに掲載したりしています。宮城県では「りらく」などの情報誌があると思いますが、県が音頭を取って減塩メニュー提供店の情報を掲載してもらうなどすることで、雑誌社にも社会的に健康づくりに貢献しているという意識を持ってもらうような広報活動は良いのではないのでしょうか。工藤医局長など我々もそういったことには協力をします。

もう一つはCOIかメディカルメガバンクの事業で一部の地域で運動しながら減塩食を一緒にやるなどの活動があるので、そういった活動の成果や問題を一緒に分析して広げるようなことをやった方が良いのではないかと思います。寶澤先生が行っていますので。

(事務局)

ありがとうございます。寶澤先生には健民会議などについても助言をいただいております。

(櫻井委員)

メタボの状況や取組は仙台市も包含しているのですか。

(事務局)

はい。仙台市の岩城部長をはじめ健康政策課とは連携をとって一緒にやるということで話合いをしています。

また、2月9日の健民会議では、関連イベントとして企業の協力を得まして、ハウス食品のカロリーオフのカレーやミツカンの県産野菜を使ったピクルス、カゴメの無塩トマトジュースなどの試食、試飲コーナーを予定しています。

(伊藤委員)

カロリーオフのカレーは可能なのですか。

(事務局)

カロリーはゼロではなく、50%オフのものです。

(仁田部会長)

委員の先生方、大変有意義な御意見をいただきありがとうございます。これらの意見を参考に是非ファースト脱却を目指して頑張ってくださいと思います。また、この部会で出された意見は次年度、次々年度には実行されていることについて、高く活動を評価していますので、今後もよろしくお願いします。

最後に委員の皆様から何かございませんでしょうか。

それでは以上で本日予定していた議事を終了したいと思います。

それではここで司会をお返しします。

(司会)

仁田部会長、議事進行をありがとうございました。委員の皆様、本日は長時間にわたりまして貴重な御意見をありがとうございました。本日委員の皆様からいただきました御意見につきましては、3月に開催予定の生活習慣病検診管理指導協議会で御報告をさせていただきます。

それでは、本日の会議は以上で終了とさせていただきます。